

# 令和5年度 学習分析事業 改善計画 三原市立幸崎小学校

## 1. 本年度の結果

### ①学力定着分析 NRT 偏差値平均 (全国を50とする)

		2年	3年	4年	5年	6年	全体
国語	前年度結果 偏差値平均	/	54.7	54.8	48.5	46.7	51.2
	本年度結果 偏差値平均	55.5	58.3	51.2	50.1	42	51.4
算数	前年度結果 偏差値平均	/	60.1	56	53.3	48.9	54.6
	本年度結果 偏差値平均	59.5	64.4	54.6	57.8	51.1	57.5
理科	前年度結果 偏差値平均	/	/	/	46	44.7	45.4
	本年度結果 偏差値平均	/	/	50.4	54.5	48.4	51.1
全体	前年度結果 偏差値平均	/	57.4	55.4	49.2	46.7	52.2
	本年度結果 偏差値平均	57.5	61.4	52.1	54.1	47.2	54.5

### ②全国学力・学習状況調査 正答率平均 (第6学年対象)

教科	国語	算数
前年度結果 (対県比)	75 (112)	66 (103)
本年度結果 (対県比)	65 (94.2)	58 (90.6)

## 2. 調査から明らかになった課題

<p>【年度当初の学力について】(NRTをうけて)</p> <p>●国語では、詳細を読み取って解釈する(40.3%)、主題や構成を読み取る(36.2%)、目的に応じて書く(31.8%)、情報を選び構成を考えて書く(37.2%)の到達率が低く、特に読み取りに関する思考に課題が見られる。</p> <p>●算数では、分数の仕組み(25%)、表・棒グラフの読み取り(33%)、速さの問題(14%)、小数を分数で表す(38%)の到達率が低く、特に数量の関係に関する思考に課題が見られる。</p>	<p>【年度当初の学力について】(全国学力・学習状況調査をうけて)</p> <p>●国語では、図表やグラフを用いて書き表し方を工夫する(14.3%)、文章を読んで自分の考えをまとめる(57.1%)、目的や意図に応じ自分の考えをまとめる(57.1%)の到達率が低く、特に書くことに関する思考に課題が見られる。</p> <p>●算数では、比関係を用いて式や言葉で記述する(42.9%)、台形の意味や性質を理解する(47.6%)、正三角形の意味や性質を理解する(9.5%)、割合について理解する(33.3%)の到達率が低く、特に変化と関係、図形に関する思考に課題が見られる。</p>
---	--

## 3. 課題解決に向けた学校組織全体の重点目標・取組

重点目標 (何を、どの程度達成するか)	達成のための具体的取組 (どのようにして)	スケジュール	検証の指標・目標
<p>【授業改善を通じた学力・学習意欲の向上】</p> <p>○国語科は単元テスト:読むことに関する「思考・判断・表現」、算数科は単元テスト:全ての単元に関する「思考・判断・表現」の到達率を80%以上にする。</p>	<p>【自律的な学びの創造に向けた授業改善】</p> <p>①自律した学習者を育てるために、国語、算数、特別支援教育部会ごとに授業づくりを協議し、幸崎モデルを立案する。(国語:児童による単元計画の作成と、獲得した見方・考え方を、言語活動において活用させる。)(算数:一斉学習、自由進度学習を通して身に付けた見方・考え方を、児童同士の授業型学習において活用させる。)</p> <p>②ホワイトボードを活用した協働的なグループ学習を実施する。</p> <p>③思考スキル・シンキングツール、ICTや学習形態を自己選択、自己決定する場を授業の中で設定する。</p> <p>④全教諭が管理職による授業参観を実施する。</p> <p>【基礎学力の徹底】</p> <p>⑤国語科「読むこと、書くことに関する思考力」、算数科「数量の関係、変化の関係、図形に関する思考力」をつけるために、モジュール時間において各学級の実態に応じた活用型のプリント学習を行う。単元テストの到達率70%未満の児童や、国語科の時間には、職員の複数対応を行い、確実な定着を目指す。</p>	<p>①1学期中に立案、実施</p> <p>②③④日々の授業、校内研修(月に2~3回)、模擬授業、研究授業(一人1回以上)において協議</p> <p>④月に1回以上</p> <p>⑤毎週月・火・木曜日のモジュール時間(国語科:月…低学年、火…中学年、木…高学年)</p>	<p>・国語科は単元テスト:読むことに関する「思考・判断・表現」、算数科は単元テスト:全ての単元に関する「思考・判断・表現」の到達率を80%以上</p>
<p>【学級・学習集団づくり】</p> <p>○H・QUの結果、全学級「親和的なまとまりのある学級集団」にする。</p>	<p>【多様な学びの設定】</p> <p>①仲間意識や自己肯定感を高めるため、グループ学習を軸とした協働的な学び・縦割り班を軸とした自治的な学び・異学年交流を軸とした探求的な学びを設定し、PDCAで評価を行う。</p> <p>【めざす姿の明確化と振り返りの徹底】</p> <p>②学級全員で目標達成に向けて挑戦する意欲を高めるために、「学級チャレンジ」を設定し、定期的に振り返りを行う。</p> <p>③学級ごとに、児童主体の自治的活動を行い、PDCAで評価を行う。</p>	<p>①学校行事、児童会活動、清掃活動、日々の授業</p> <p>②学級チャレンジの設定は月に1回程度、振り返りは毎日</p> <p>③学期に1回以上</p>	<p>・2回目のH・QUで全学級が「親和的なまとまりのある学級集団」(全学級で一次支援の数値が向上した上で)</p>

